

ズルくて弱いキャラクターを作ろう


- 企画
- キャラクター
- 構成
- 主観的演出
- 客観的演出

前提

人間はみんなズルくて弱い。ので、ズルくて弱いキャラクターを作りましょう。そのキャラクターのズルくて弱い部分を物語の序盤で効果的に見せておけば、後半のそのキャラクターの成長も描きやすくなります。ズルくて弱いキャラクターは主人公にもなり得るし、サブキャラクターにもなり得るでしょう。

みなさんは、「どんな風にズルくて弱い」キャラクターを、どんなエピソードで読者に提示するでしょうか。

【問題1】ズルくて弱いキャラクターを1体作ってください。簡単なプロフィールと、具体的に、どうズルくて弱いかを説明してください。



1人暮らして、せみじのあまり、
 女の人を連れこむ。(で、幼なじみに怒られる)
 ・世話する幼なじみがいって家事をしてくる。
 ・何を考えてるのかよく分からない。
 サラリと甘いセリフをいう。
 つまあうが、すぐ別れる。
 女の人と長続きしない。
 ・料理を食べると、おいしいと満面の笑み。だから幼なじみは世話をやめられた。

【問題2】そのズルさ、弱さをエピソードで見せてください。

- ・女の人に依存してしまう。さみしくて常にたれかにそばにいてほしい。
- ・幼なじみの女の子には手をたてない。けれど幼なじみが自分=気持ちがある事を知っていて、「お前に彼氏ができたら嫌だね」と期待しちゃうような事言う。幼なじみは中々あきらめられない。
- ・自分がいっばいいっばいになったらだれにも何にも言わずどこかに行ってしまふ。
- ・ずっと一緒にいようと甘い嘘を平気でつく。
- ・だれにでもフワフワついていこうとする。
- ・一人じゃねむれない。

【問題3】そのキャラクターが主人公だった場合、彼がどういう発見・行動をすると成長するでしょうか？簡単なストーリーラインを考えてください。

幼なじみが家に来なくなると探しに行く。いなくなってから幼なじみの大切さに気づく。たつと幼なじみが自分を探す時の気持ち分かる。大切な人はいつも離れていって怖かった。自分の気持ちに向きあていなかった。幼なじみはこんな自分に気持ちを伝えてくれたのに、逃げた。大切な人を作るのが怖かった。けれどもう逃げない。幼なじみを見つけ出し、気持ちを伝へに行く。